



山
玉
廿
九

中村俊定文庫
文庫 18
1018
10



第十九

わさし海

さげのり

そと

とらふれすれ

ちかほりめ

あつたむらうら

うけりめ

ちかほり

あけら

とらふれ

もれあやそら地河

たのたわれ

りふり月

はらりあり

わさし

あつたむらうら

ちかほり

あけら



あはれあはれ
ゆきあひのせ

まじりあはれ

あはれあはれ
ゆきあひのせ

袖中抄十九



袖中抄第十九
やまゝ海



こゝれ京やまゝ海をけてこゝれおぬ
人よははきまゝあはれははきり海

然昭云やまゝ海といふ事少くは乃極あり
一よハ出船回子やまゝ海と云ふゆり一よハ八
十鳩といふ也それハ記さるゝころ紙はひよあはれ
何事と云ふ事成云也なりよもけし事ハ八羽
朝臣隠岐國へありははきりははきり時舟よ乃
里と出さるゝと京あはれ人のりよははきり

うらふ事あるをいふく出羽乃やそ
はくあふくあまも乃鴻くさうけてこ
まのつとあつあつへー但奇福義は程志
て云あふ事成はくあつあつと百鴻た
ふじへー何れは十鴻年答云ふーは百
鳥とふじ事もあり又やは陰教乃まは
まれはふり乃あつあつはまはやを
ふあり又やーか乃怒ともあつあつと
とも云也又あつあつはあつあつと
乃らあつあつと人あつあつはあつあつ

くふやう乃あつあつとあつあつと
あつあつとあつあつとあつあつと
あつあつとあつあつとあつあつと

あつあつとあつあつとあつあつと

私云いふは後水洞那と作也是は何ま
あつあつとあつあつとあつあつと
あつあつとあつあつとあつあつと
あつあつとあつあつとあつあつと
あつあつとあつあつとあつあつと
あつあつとあつあつとあつあつと

と名と出ぬもうらなれやうあまはう人極い
もあうりみん私云い予ハ書をお回下毛郡
作也是もあまの鳩也上総防人りく海乃
みちいさあし然もさうよやうあまうけて
こくれちうん又指遺集云

もあまのあまやあまやう鳩然

見ゆこちひらぬ乃中月

私云これもあまのあまをさうあまのあまを
ん也い身然本あて地河院百首よ紀行云
月新よ

始乃中月然をさうあまのあまを
八十鳩あうりみんあちす海

代初あそやう鳩のさういよを内れあ乃と
乃たらそをさう海あうりとり事ハ清海
それもあまのあまをさうあまのあまを
こあまの西乃海よじういりりくれ鳩
あまの神然もさうあまのあまを

或書よ風古記とむさうく云地は東よ八十頭
鳩と云あありそれい昔女人鬼といひてまに
あて網とさうあまのあまをさうあまのあまを

八かちてさひふゆめけ細りりふゆめもむき
あきふれりきゆりよりよゆめあきりあ
くれあけりら七十八人の取二くらて八十
ありふれえやきゆゆとゆとゆとゆとゆと
あふは是二取乃名ゆてもありあへりゆゆ
てらふとすまふとやきゆゆゆゆゆゆゆ
申事もあれとゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
へり又百象えやうらふあゆゆゆゆゆゆ
まありありきんむりゆゆゆゆゆゆゆゆ
相模防人等也り本國ハ八十あふれとゆけ

ゆゆりむりの日ありらゆゆゆゆゆゆゆゆ
かむらん人もゆゆゆ
はるた本

そのゆゆやゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ありとゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
然服えとゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
とりゆゆ杜ありゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
乃本もゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
と八庭とゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

身合等也家成心等合藤乃忠康等云

とて此本に記すやうなれう所成りう

う乃りうにあく致うや抄写

基後判云左方より記す小書やこりれはと
よすれう所井ゆえうう所りけ麻の書ハ
いうやふはききうめしうれはよりゆん
作名乃らうきたりう海かき事うまひ
本えやふふの抄よあけまらたひは
あふもゆうあきこ中ふふのれりこ
ひめかうこの麻ゆりまらひゆらむあ

福ハ枝乃あひし葉の中ふふりきりんあふ
うう各抄文抄ゆふあ紙抄も
てり可身式首風古光とりあみゆふ
ようべうゆりううハ大略みえゆりあき
と年記ゆめゆりあきとらううわんえん
ゆりゆ件本ハ義法行法あ圓累うゆ系ふ
まやと云ふよあゆあ也とゆりてみまハけ
き然とてきゆやうあてたてりちうてられ
えそれよゆゆ本もあ一統ハありとゆれ
あゆゆ物よたえゆた等云うれりやゆあ

げん、身、心、願、子、中、文、心、己、相、遠、洞、も、北、秀、逸、
伯、^{子、十、カ}、^{子、十、カ}、仲、口、判、云、た、ん、く、た、本、よ、業、ハ、い、く、あ、り、の、ま
侍、人、く、ん、衣、を、い、や、し、ま、れ、と、程、を、く、起、く、い、ち、り
か、り、た、と、り、て、や、侍、持、板、云、け、く、あ、く、に、二、乃、福
あ、り、一、よ、ハ、第、本、乃、あ、侍、り、ら、れ、わ、侍、也、そ、侍
い、ど、き、く、そ、り、れ、中、ふ、け、く、あ、く、銭、お、ひ、り
そ、れ、銭、を、き、く、て、ま、れ、い、あ、く、や、う、あ、て、杜、れ、下
よ、め、く、ま、れ、い、本、乃、志、り、て、み、え、ぬ、也、一、よ、ハ
第、小、心、な、侍、本、れ、る、乃、杜、よ、あ、侍、也、そ、れ、と
と、侍、て、ま、侍、よ、い、あ、侍、や、う、あ、て、ち、く、り、り、て

み、う、ふ、い、う、は、く、也、あ、侍、い、く、く、あ、り、是、ハ、い、や、
あ、侍、侍、あり、か、く、あ、ん、非、也
私、云、い、あ、説、い、つ、建、戸、あ、侍、と、い、ひ、く、一、杜、の
本、乃、志、き、く、て、極、き、て、み、侍、よ、ん、く、あ、く、ん、を
何、や、し、き、事、に、あ、く、侍、く、起、本、と、く、そ、
各、侍、わ、く、へ、ま、よ、あ、く、侍、と、侍、く、て、い、く、極、れ、と、ち
く、そ、い、み、く、は、い、う、あ、や、し、も、さ、た、め、し、あ、な
い、と、れ、め、徳、圓、よ、い、是、よ、れ、く、く、わ、事、を、あ、か
う、ら、た、と、い、く、侍、う、侍、事、を、く、く、い、ひ、く、
い、い、ひ、を、侍、く、侍、事、あ、侍、り

吾者物之びあれたる一りふりしむるのば
信徳圓子より京小きやと云取あはしより
ふふ森乃あつてはとみくられい色くは
きよゆふ本れ指のむ極ゆるちくくは
うせくみふらんと本よてあんと極ゆる
いひはえふゆはけいひんふ人よと人い
本もみくはとさうりひ青よりいあやうにみえ
きあけいひ帯ととみゆふ本よりんといさう
ちくくはりてもかられめとさう申

私云いふ相計悪念又わ忠あれたる杜、ま

さうくあつてあはへしとる物

兼曆寺合師賢朝臣紅葉寺云

とくあはれ精やいりこあつる子

みまうりりくくおあしとさうり

私云いふ寺の杜本中ふりきく一本海し

まは強強信回記云いふ本入權辨伯老白

本あふ不快事也亦筆書改不轉難不知不

難私云強強めい難ふ後頼入金葉うあ何

件出改寺師賢

吹風ふちふおあはれいぬ人

うらやまのこころ

奥平抄引後指述云

極くよくありしものありしあり

あはれとありしものありしあり

今勘國史云仁明天皇景和二年六月執事如
少東海东山西道河津之帆或後舟數少
或枹架不備由是貞和擔吏來集河名累
百_ラ經旬_テ不利_シ涉_キ宜_ク每_レ河_ニ加_ヘ増_ス後舟二
艘_ヲ其_レ價_高重_ク且_テ須_ル正_シ稅_ヲ又_テ造_リ浮_橋今_レ以_テ通_ル
及_シ建_ル布_施屋_ヲ備_フ于_レ枹_架其_レ造_ル作_料共_ニ用_ス

救急福

陽成天皇元慶元年云弘仁十三年回分
及_シ弘_仁之_レ救_ヲ百姓_ノ涉_ル河_ノ之_レ難_ヲ於_テ越_後國_古志_志
郡_後戶_濱建_ル布_施屋_ヲ施_ル田_百十_余町_ニ
後_舟二_隻今_レ往_還之_レ人_ヲ以_テ其_レ穩_便而_テ年_代
積_久之_レ人_ヲ勞_ム歟_存宇_破損_田疇_荒廢_ラ後_積
被_テ充_テ越_後國_信五_人永_ク令_テ預_守
今_案之_レ信_濃國_之其_レ京_之云_不少_也や_と云_不
乃_判之_レあ_はれ_とた_りふ_し布_施屋_と有_るに
其_レ信_濃國_之云_不少_也や_と云_不

乃布絶座成たりありきほよ又依頼胡后
田家放真奇

山田りほきうれあまやふ風吹し
あせほひりてうつゝあふ

是い音乃あまや志川のあまやあふりし神歌と
存すほよ信流乃依頼ふしか乃布絶やあふ
あや又きうそれり相迎とつり又信流國よ
いはる成なりそあまのつりて成し土
まうのそくくみあはあましく我れおれ
かほ冬雪のあつたわりの道とつりそれき

あまやとて中あふ

みより

君いあふ流乃とていそらあふ
あまらうとてうれあふ

飲服云う流りうとていはけはあまに水れあふ
あまをい流りうあまの識もきりうらみよの
あまのあまのあま成云也世俗まは流りあ
あまを和音よいあ流りうとてあまじ也よ
水脈舟とくたういあ流りあまのあまありよ
万葉云水越衛石あまら流りうとてあまこの

まじりしれ後あしむる

私云乃すいあぬまじりあはれ又古た日記云と
まじりしれ後あしむるあはれしれは
て河麻子ゆはといふの國史よ六韜波津子
始立^テ深^ミ深^ミ由ありそ年可考に六姑奇
まじりしれ今もまじりしれはあはれ
まじりしれ今もまじりしれはあはれ

はの國よまじりしれはあはれ又まじりしれは
まじりしれはあはれはあはれはあはれはあはれ
まじりしれはあはれはあはれはあはれはあはれ
まじりしれはあはれはあはれはあはれはあはれ

とてぬあはれまじりしれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ

又はの國よまじりしれはあはれはあはれはあはれ
まじりしれはあはれはあはれはあはれはあはれ
まじりしれはあはれはあはれはあはれはあはれ
まじりしれはあはれはあはれはあはれはあはれ

能因字枕云まじりしれはあはれはあはれはあはれ
まじりしれはあはれはあはれはあはれはあはれ
まじりしれはあはれはあはれはあはれはあはれ
まじりしれはあはれはあはれはあはれはあはれ

一 名のぬらやうらうら

名のぬら屋う字治めのあーろまよ

ついでふ波乃の素しうひも

名昭云も乃ぬら人乃想名也人乃姓ハ家
うまハ八十氏といふ也百姓といふもたか
敷也八十といふハ陰乃敷のゆ也是を略
て名のふといふ縁とやうらうら人もいふ也
あーろまよいゆふ波乃の素しうひも
奥義抄云のふといふたき記もれといふもた
たといふる人といふもいふやうらうらといふ人

乃姓ハ八十あ家也あ家ハやう氏といふ字治め
変いりんとくやうといふくくやう氏人か
も八十氏乃人也

あやまやうらうら人乃まらたむむら
ゆい乃りを私云人姓ハ八十ありといふ
ら乃乃あやう海城やうらうらといふ也

そととも

家宿のそとりのふたて海あはれら
あけらふすしうひまハまよら

名昭云らとともいふらと云事也

舟日本記云里行云陽南新面りきとも港水
背面りとも

葉之南日乃新のちり水にそびきおおも
てともお船

又日本記云港をといそよれたるに續り
万葉云いそよとて國ともあり

吾名抄云いそよとて國ともあり

續後抄云いそよとて國也

山相云けその邊云いそりありとていせと
こいそよとせと回書也又いそよとていそ

田桑大納言舟枕云いそあり一よいわり
邊乃門より舟枕云いよいより邊れせされ
とていよ能因舟枕云いそりりりり
とていよ或相云いそ里乃門とていよ古事云

いそりりりりりりりりりりりりりりりり

冬もいそりりりりりりりりりりりりりりり

古物云いれがらりりりりりりりりりりりり
まらりりりりりりりりりりりりりりりりり
とあいらりりりりりりりりりりりりりりり

本院傳記云

いさやあそりふあふりふくさ
ひまそらうみかんらねりやと
おまのたふれ おまのたふれと

世の中へたふれきりたふたゆめく

いさまられてらるすたふらふら

ぬねえ頼といふきこもあたりあきあひ
あふふらふらあふらふらふらふら
えたらあきつてらるはららあきあひ
人とあきつたりれとあき又万葉よあまの
たふれととあきあきあきあきあき

いさやあとかあすいれとえきりたふのた
いれとえはる川女に贈大伴田原守家
をよいれあひらりやとあすか人をいさ
まはるあすいれをよあきあき

万葉云大伴田原守家曰大伴田原守家
俊秀絶見人関者靡不歎息也时有石川女
郎自成雙拙之感恒怨独守之難意欲
書未遂良信家依使而以賤媼已柅鍋子
而到寝側史云踏足叩戸語曰東隣貧女
將取笑牙矣於是伴郎暗去凡識冒隱之秋

慮外不堪拍接之計行念歎失就跡帰ル老色明
後幸昂既耻自媒之可愧後恨心契之弗果
同作城守以贈詭戲焉

奥牙抄云たふれとハ好多と云ふ也れそと
ハ好くあ〜と云也いろころみときげとそれ
とそ〜めひきこるれいろころこありと〜め
甲今もめわう人て尸詞也或人云東園の
色れんそ〜事試ハおうとやひふありあれ
そ〜いろこれと〜めはよ〜うそ〜尸あり
万葉云

とこ〜人よあ〜ま〜物試流るれ〜ら
わ〜ろ〜らあ〜れそ〜やこ〜ろきこん
又たたれと〜六年に不器と〜書ぐ
今云にそのたふれと〜れと〜れと〜まされ
ぬ〜れハあ〜ゆ〜物也
と〜流るす〜れ

あ〜の〜れ〜く〜ら〜れ〜れ〜れ〜の〜めハ
あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
形昭えと〜ろろす〜れと〜まのやまわ〜す
す〜れと〜れ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

とくろくとつへは也万葉歌
とつやたつ舟セキの奇鳥カスガにまろけはじ
ちもぐらむもみらくともくも

又基後奇

とつやたつせは乃とすくろくきよけて
はめつやまろけはくもろく

是八百葉奇紙本めく神歌とくろくと八葉
乃とくろくくもつよ也

万葉抄云りたきとくろくろふと八葉名也
今云春山の舟れとつよまきくろくと八葉

あつ人もきとくろくくもつよとくろくろふと八葉也
つよへきめめりたきとくろくとつよまきくろくと八葉也
つよとたつとくろくとつよ八葉八葉八葉とつよ
葉名八葉のちつありとくろくもつよもたつと
たれとつよめれもつよたつとつよれとつよあり
つよとつよくつよとつよとつよめつよをたつり
まきとつよれとつよもつよとつよまきとつよ
とつよもつよとつよ後撰よハ

くろくろくはたきれもつよとつよれとつよ
とつよれとつよとたつとつよとつよ

是同事也

帝蒙抄云いすあり多子時ハ彰のちう
あふりの勢あまういすくまれの素性法師
ありあふとこ乃續たまふ方りく
た乃りくあまらるれあはるふまた
くあんまうてきふとあんのいふ
今云いすハ本情指信正教因ハ年也こ
乃人ハ大ニ衆取乃小式教因得ようまを
これいふやいう此好中ありすくろ
すきとらふ事も和泉式部孫あれハ

らひはてふ海まはあや者真事也
或人云くろハ十ん乃あはまらんといは
と云う乃あはまらんのをまきくろ
まらんとあまらんつらむ也

いさふ月 いあひゆもらり

山乃らふ不知夜應月と将也

まらつてあまを海へまは

強眼云いあふ月とハやまの月といは
あまの月とハあまの月といは
乃わりあまをまの月といは

一言よりしむく遠征の人のあつらひと
まじゆいぢのあんとつらひのあつらひと
とあれたうらひとあつらひとあつらひと
あつらひとあつらひと

山の隅は不^イ知^サ世^ヨ終^ヲ月^ノれおんうと
い奇ともはみなりとやらひとだええり
又六拍子

い奇つたあせほ也格透あもはまら終章
よはあつらひとあつらひとあつらひと
あつらひとあつらひとあつらひと
あつらひとあつらひとあつらひと
あつらひとあつらひとあつらひと
あつらひとあつらひとあつらひと
あつらひとあつらひとあつらひと

奇新撰

ふのちふらちの月よあはれ

ちのちのちのちのちのち

あはれん月よあはれん月よあはれん

あはれん月よあはれん月よあはれん

又万葉よりの月よあはれん月よあはれん

小ついでに月よあはれん月よあはれん

らふときあはれん

終終抄といふ月よあはれん月よあはれん

あはれん月よあはれん月よあはれん

いふくちの月よあはれん月よあはれん

らり十五日より月十六日といふ

といふ約十日といふ約十日といふ

日といふ約十日といふ約十日といふ

下旬といふ約十日といふ約十日といふ

かひり月といふ約十日といふ約十日といふ

みなわり月といふ約十日といふ約十日といふ

いふちの月といふ約十日といふ約十日といふ

下弦といふ約十日といふ約十日といふ

いふちの月といふ約十日といふ約十日といふ

いふちの月といふ約十日といふ約十日といふ

むと戸のりら此後キらち能乃いまおあ
かち成ちさしぬとさふもある人まよも
ち月よりいすもさぬある人一人
といさよふとさふとさふとさふとさ
ふん也誘引とさきりいさふもれはさ
らあり

童蒙抄之いさふとさふとさふとさ
いさふとさふとさふとさふとさ
ふん不知物と書くさふとさふとさ
さふとさふとさふとさふとさふと
さふとさふとさふとさふとさふと

いさふとさふとさふとさふとさ
一今云本集といさふとさふとさ
知物^ヨ歴月とさふとさふとさふと
さふとさふとさふとさふとさ

奥義抄云古今奇

さふとさふとさふとさふとさ
いさふとさふとさふとさふとさ
さふとさふとさふとさふとさ
いさふとさふとさふとさふとさ
さふとさふとさふとさふとさ

いそいでちやらぬ程さういふ也万葉挽歌
あも

かかれぬるもすまはるもまたたうよ
いそいそあまのこゝろあつらん

とありあまもさうらふもあやもぬ色も
乃事いそいであつらんてふもたれもあま

追^イ序凡此諸類多也也^イ程^イ深^イ久^イ也

乞と縁らぬいりゆゆ何あ縁らよ

いそいそあまのこゝろあつらん

或本にハれむもあつらん^イ程^イ深^イ久^イ也

万葉集云

何お縁らぬいりゆゆ何あ縁らよ

物縁そあつらんてふもあま

私云いそいそあまのこゝろあつらん

後よいそいそあまのこゝろあつらん

いそいそあまのこゝろあつらん

あれいあつらん本よいそいそあまのこゝろあつらん

いそいそあまのこゝろあつらん

いそいそあまのこゝろあつらん

海ゆら〜

いあへ乃まゆさあおもあなねとも
きんいみまういりてりふと

願服^カまう絶さく免とく催^サ子^ラ未^ラ也^ラと
まうあさり久まう絶さくめとりのあつきて
あゆ也あまの後格遠よあ伴^サ辨^サ守^サ義^サ春
う治^サ前^サ大^サ政^サ大^サ長^サれじやあふさりあひ
とらて東^ト尾^ラ座^ラとあ因^ラ乃^ラみまうつら
争^ラあり

戸^ジ自^ジとり事^ラハ或^ラが女^ラ也^ラ或^ラハ流^ラとあ
ねと者^ラ女^ラあも若^ラ女^ラあもいりてりてりて

い事^ラあり志^ラいりいこおとこいあふ丸
とつひ女^ラといあふめといハ海^ラ絶^ラとあハ
かつて女^ラあてあう人^ラきまみまうあさりて
とうへいハ若^ラと移^ラりりめあや私^ラ考^ラ或^ラ繕^ラ
ふい争^ラ乃^ラすあ成^ラあ月^ラみまうせま絶^ラと
志^ラめとうへり是^ラも女^ラとまあさり又^ラ或^ラ
本^ラにけ争^ラ成^ラま絶^ラりれとめとりま
あさり

あさりあはりまぬまあさりハ
わらも花^ラ乃^ラけよあられ

能眼云ちつくりとくかほとら事也
さハ羽の助也ささふとまりあさ
葉也奇云たさくりともいささきぬ
左^{サクモ}理^{リテ}あめハたちきぬ
いちりりぬハちきぬと云詞とちつ
りぬハちきぬと云と詞也をささい
葉乃ちを理成ささかりともあ事
ありあめ後来ともありきぬとさ
しそれとあささえて花蘭と成あ
ちそハといふもあや又ちつり

あましく乃葉あり
或ハちつりふとら詞ありといひ或も
さは^サ葉也ちあめくはあれたあえた
ささささささささささささささ
ちかさささささささささささ
和泉武平云
あまぬらんちつりかちさささ
い本乃りとのあさささ
道命何國梨云
ちりもあれ花乃ちつりにさささ

あつらひたりとや人のおもむき

いぬの心はあつらひたりとや人のおもむき

むじんの幸ふ實際隆々

いぬの心はあつらひたりとや人のおもむき

あつらひたりとや人のおもむき

是も同く又さうと特と云ふもよせ

と云ふや

奥義抄云いさうと云ふは或先を述中

のつらふはつらふ細也何れつらふてぬ

ありきぬと云ふ也と尸せといふと

奥義抄

こぼれつらふと云ふは或先を述中

のつらふはつらふ細也何れつらふてぬ

ありきぬと云ふ也と尸せといふと

こぼれつらふと云ふは或先を述中

のつらふはつらふ細也何れつらふてぬ

ありきぬと云ふ也と尸せといふと

こぼれつらふと云ふは或先を述中

のつらふはつらふ細也何れつらふてぬ

ありきぬと云ふ也と尸せといふと

こぼれつらふと云ふは或先を述中

のつらふはつらふ細也何れつらふてぬ

打穿よの進なれはあやわきさ人なりあり位
わささちてゆく藤人さちつたれも人ま
ゆもやちるんさとりひゆへくよあつま
おひくあれたりとりおもひくきたれちり也
葉乃らまれきたれゆちりよるに乃りそ
花よひてきたれそてりれさすあえき
くちかりさくひつと申す

志のつたれむるのつ
志乃^{イニシ}倭文^{ニツ}旗^{ハタ}帯^{オビ}紙^{カミ}巻^{マキ}ひなれて
たきそよむも君もまらひし

一書^{ヒト}方^{カタ}云^{イハ}右^{ミダ}之^ノ狭^ヒ織^{オリ}之^ノ帯^{オビ}初^{ハジメ}結^{ムス}重^{ナカ}作^シ継^グ人^ト
毛^{モウ}君^{キミ}尔^ニ波^ハ不^レ益^ク 願^{ネガ}胎^{マタ}之^ノ志^シのつたれと
あやみきさあつたれまらあえく布
とゆつたれは志のつたれへく志のつた
ありあえきす乃布れ帯とあつた
たひとあへあえさるさゆなれ志りま
とてれまらそのちうあゆみの成あふ
何てくぬらはめとりあゆみひつらゆ
と志のつたれとあへさくと申せとそれ
ハ叶はれむるなれとあゆらあつてく

きぬこそそをききてはひらあひあてわたり
寿万葉長年と云ひあり人よ何り人乃
あひつる帯をたえて外と替り是はら
一かろきこのてこあは事哉よあはと
よかともじも別るものとまはえら
但これとゆれとこあはみとあは人
あり人乃といふもせらあ人乃あつる
帯と替ひされとこあともあはきあ
旗とるきあひ万葉のあひ也たあつる
秋ふも或懐とりに或は旗とるきとる帯

とよあは事しあましくあり或はしうた
ねひ乃じとよもさくもみはとあやも
よこひとらあん或たあつるあ
あはそあてつともあは縁あは人の
ねひとあへ一ありとひもはあひ
とよあは事しあましくあり或はしうた
ねひ乃じとよもさくもみはとあやも
よこひとらあん或たあつるあ
あはそあてつともあは縁あは人の
ねひとあへ一ありとひもはあひ
とよあは事しあましくあり或はしうた
ねひ乃じとよもさくもみはとあやも
よこひとらあん或たあつるあ
あはそあてつともあは縁あは人の
ねひとあへ一ありとひもはあひ

さしおのり候とてふはありひみされとて
かこつらありきつら候とてされとて事
よふ也

あつたにあらうとて秋の秋の
あつたもあつたすき記はつた

忠孝もあつたもつたす事へあつた
みされとてありとてありとて
あつたもあつたもみされ候

人よとてとてあつた候
又あつたとてあつたあつた候とて也

たてぬきつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

又あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

ついであり日本乃ちもそとつり位田村
の軍征夷之時られしすあてふれ面
日本中央乃ち一紙うたつきこれ文
とつよとつりの信濃約信の申志ハるの面
あつて言ふ文符のあはれ文あつてつき
そのとつりつとつちとつとつそれとつ
ちとつち也私云みち乃ちふの東れとつと
ふとあそ乃ち鳩ハあつて子つとつとつ
ハ陸地といふんよ日本中央あてつとつ
とつ

らむるる免

あつとつち免とつち免とつち免とつち免
りひきすそ免れ免れ免れ免れ免れ
於昭云うれ免れ免れ免れ免れ免れ
いふ免れ免れ免れ免れ免れ免れ
つとつりつとつち免れ免れ免れ免れ
免れ免れ免れ免れ免れ免れ免れ
是ハ神系乃酒殿乃也あつとつち免れ免れ
をせつり又みとつち免れ免れ免れ免れ
神由成はつらん免れ免れ免れ免れ免れ

ほふあや

あひとのみうらひさしち

こららうらむれあひとの身うらひさしちの
あさうらあれやまねうらむら

娘^カ腹^カ之^カれ^カ乃^カえ^カひ^カす^カハ^カウ^カこ^カ人^カの^カ子^カあ^カさ
めん^カと^カひ^カう^カふ^カら^カう^カ血^カと^カ子^カれ^カ血^カを^カ成^カ合^カよ^カ我
子^カあ^カれ^カ親^カ子^カ乃^カち^カむ^カら^カふ^カあ^カひ^カぬ^カこ^カ人
乃^カ子^カあ^カれ^カ血^カを^カら^カふ^カあ^カら^カう^カら^カり^カあ^カく
こ^カら^カう^カら^カあ^カき^カや^カ何^カま^カひ^カと^カい^カふ^カあ^カは^カ也
江^カ記^カ云^カ赤^カ深^カハ^カ赤^カ深^カ時^カ用^カ女^カ也^カ依^カ歷^カ志^カ傍^カつ

志^カ尉^カ亦^カ号^カ赤^カ深^カ也^カ實^カ兼^カ感^カ女^カ也^カ離^カ別^カ彼
母^カ之^カ後^カ称^カ乃^カ子^カ款^カ尋^カ取^カ之^カ处^カ母^カ惜^カ而^カ称^カ不
就^カ之^カ由^カ相^カ端^カ之^カ乃^カ乃^カ通^カ拾^カ非^カ違^カ時^カ用^カ何^カ也
之^カ間^カ子^カ被^カ母^カ字^カ通^カ相^カ行^カ之^カ間^カ尔^カ称^カ非^カ兼^カ感^カ
子^カ之^カ由^カ深^カ称^カ时^カ用^カ兼^カ感^カ了^カ合^カ血^カ之^カ由^カ申^カ
云^カ乃^カ兼^カ感^カ尤^カ乃^カ兼^カ感^カ子^カ也^カ

母のすけ

あま乃あはほやれそれも同あけハ
そよくあううい海りまれ

娘^カ腹^カ之^カや^カ乃^カと^カい^カふ^カあ^カき^カあ^カら^カう^カ國^カ子^カ也^カ

うしあまのわはさくた也或はよのちわさ
やうあはさくたありとかきくそれとそれの
いしとおんゆ故友京地乃^{ナギテヤ}尸あましつを
つあはさくともあつねそ人事いりんよ
ほやのきんたといひほつたりそ人事也
たとへふそといふそ人事あそもあつ
そいりんあそもそあつあつあつあつあ
ほはそれといふんよたふまうた也ま
あつあつあつあつあつあつあつあつあ
そそあつあつあつあつあつあつあつあ

あまとり

あまとりゆひほつあつあつあつあつあ
まあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあ
六月つらり七月よあはかつあつあつの中
おとあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあ
あつあつあつあつあつあつあつあつあ

海とくもかわえ縁と少海ありしに志る
これハ書乃ともゆ也但和名ハ胡鶯とか
まてくハマとりのともあり又ありたのあり
又鶯子鳥アトリと俗云ハ止利辨ハナカサヒテ久立成云臆ハナカサヒテハ
鳥一云明雀此鳥群飛如列率之海山林ハナカサヒテ取
者鶯子鳥也胡鶯コウ兼名鶯注云鶯ハナカサヒテ有胡
越種揚氏漢語抄云胡鶯子阿アトリ可止り
あきと山

あつちらにありとらふあはめけと山乃
あき乃うれてともて成とてすうな

願船云にきあといはつちらふあり人の乃
まんとすれともあがとてまれとふらゆ
水ありとらうひはく入とゆ是ハ依船朝長
徳也是もあつちやハあつちとありんや
人乃ひひとたふ事なれ志海此也
ちりやれん

ちりやれん
ちりやれん
能服云ちりやれん
とらふもや海海あもらうあり

とてのれちありのりたにけけり
あさ乃れひをせやますありあん

い二首えとりのお貫之御之

隈波圓ふより結^つ文利^り勝^るといふと一りよ
とすれやとつ小神はれとひあね毎
すそていふれ神はを帯志とくまの
初とそりひそね式奉^り解^りめてうも然も
ふとともみらと初^る神とにちありれ神と
あつ事とふよや又その神とあつと
あふもはきとふよや是にあまかられる也

あつ死す

いあんとあ人のあ——あ兜の因

柳とすふにわらま——もの也

那服云伴路新まよひいまこおとこせぬ
ハあつとすたりよハお海とあん
あまハああ事ととや——ふとつあね
れとせあつま——あつ死すたりよハ
あつま——もろ然と名——ああはハ
後新也
きつ乃なあみ

春日山きこはな波ありしり
ありていりてありあり

眼云きこる有波といふ氏の言
小水家二人のれりれ也それよきこの
友あみといふむあり

あつきこる南のきこるいり
今やありんきこるれりあみ

い奇の南山堂に壇はく時老翁
く相上人ま中へく壇をくく
あつて老翁の言はく春日の神は

給ま一説は春日の神は使率川
神築壇はくい奇の壇はく
左大臣の廟建ち南山堂は時夢は鬼
まは神はくい奇

あつてくは南のきこるいり
まこるなりありあり

妻の杖素略記はく又南の堂は
ふりて南也補地は山もく
るれいそれよきこる南の
親まの補地はありあり

若といふありけ思乃後いさられあ
ゆきあひのよせ

ととあふに梅見あひのよせ成る可よ
ありあきしむる見乃花ゆく

然船云ゆきあひのよせといとら乃ん
とよせよ後つきふゆ也万葉奇よ

梅見あひ乃ゆきあふにむきふ
あつれえぬ然んせんこゆら

けやあきくゆえあふゆらよあはよせ乃
名も取よつきふゆとまに梅見也

舟舟巻

りあ梅乃ゆらゆ海 けあはゆらみ

あゆらゆ ともあらぬ海

ともゆらゆ ちねうら

ともゆらゆ ちねうら

ともゆらゆ ちねうら

ともゆらゆ ちねうら

ともゆらゆ ちねうら

ともゆらゆ ちねうら

ともゆらゆ ちねうら

そりむいまゆ
いれちさり
いよあせさり
くらり花ひり
結やうこひけ
うととぬ
金もやま

ゆいりきさり
おあらしと
くらり花ひ
うととぬ
ありのけり
ありのけり

袖中抄第廿

そりむいまゆ

そりむいまゆ

そりむいまゆ

然昭云りそねりまうらけいまよと八あふ

とれ舟のよふゆとりの也けいふ八新船は

列對子儀茅浦時縁也

或人云らゆとらつらとらふありとゆう

せと万葉れあもみちらもささるふ

舟よすくと云詞とそあわしゆゆ

おほとれらののさつらふもそく
らるる乃山哉らうまく抱らん

是ハ廻来列播磨作とらり

あきしるふわあねそんまふれ貫

よせまてとまれおまの白波

彰羅使 破らふあまれ釣毎はそにらり

らるるそんらうらうらうらみ

大伴 鳴りまぬ我毎そそつまやらん

はらひとあまやあまの抱らん

よりそひよらららみらにららそそ也

われ乃らうみ

おほらうにあられあまそそあららり

井なる湖うあねらじらうそ

然ハ昭ハおれ乃らうらうとハ湖の字よまて

あしそあふ本あり湖字紙書たらん

り或らうみとらん或らうとそらみ或らう

ほとらみ或らみそらみ或らうらと

らありけ中よらうみとらあふ本はす

あしいらあまあそ被ほの圓れ井あそふ

とらら水うららわあ照ふあや乃

池よりあまのこしひまふひよう何まじりてい
 いほおもくろれまくいつてふらんをゆよ
 ち海ありうれかみよあ乃海とそ別よも
 信徳みすん乃海あり越中よあをれ海
 あり二糸流のれ時或人國上月のふ題
 よわなれあうみとふあり一誠を座乃
 奇仙進みもととあられすとあし一信
 事也仍信守ゆ也

あうまね
 白茅子^{アキハキ}あきまぬらふ

あひひみ極うまぞらう人う
 船昭云あきまといまらつ花あつ萩乃あ
 進ハそれとふあゆといらんもつうはと
 是ハあきまねとふひんた也やうそい言あ
 里万葉乃十巻り
 ちけおくああは白風^{アキ}
 いりのとまねにゆむもねゆらな
 白風とねをせとふみはまじハ白茅子もね
 したとふじいしああらあなうらよわうま
 ちあうまねと不正強欲

とよちうのいぬ

みられくろとよちうのいぬも野うま

あまじうはあまじうとわらう

然胎云みられくれとよちうのいぬは六指の

うらちの胎小班コブの物といふ也は格考おも

あふらうのきれ乃杖じうむかた

とよちうよと格考りら月ういぬ

けいこをたす月うきくうつりてらおら

すたうまはやうにみ格考也奥考抄云

とよちう物といみらのらあきとよちうといふ

とよちうのいぬは馬よとよちう也曾母奇よ

格考はとよちうのいぬとみうとたう

いぬとていぬといぬとていぬ

けいこあてをきくうらとよちうのいぬとよちう

うらとよちうのいぬとよちう

私云みられくろとよちうといふ取れ者ま

えはたうとよちうといぬといぬのいぬと

あまじうとみられくろとよちうといぬとよちう

とよちうといぬのいぬとよちうといぬといぬ

とよちうといぬのいぬとよちうといぬといぬ

ふねは乃せれすていまぬ
是いあさると言取のあれい弱よさゆ
ともよび也それともらる回りの
おらりて名たうきこ極也みらの國
よさよらとらふあふあふさひ
但曾丹の奇いともらのさゆも成あらの
極うれと書ふ極本ありそれい
うらさゆのまこい極つらり也うねうち
らりたらじよみくいりてうせあつて
へき半也うよみくいりて各成あり

いそんハワレあ
とねううう

ハカ子カウラ
波祿獲いまのしつうううわみ
あううううううううう

いあううううあはうあううう
又万葉
田家持能童女

ハカ子カウラ
葉根獲いまのしつうううわみ
あううううううううう

童女本能奇

とねううう今しつういんあううう

いうあはれりそあはれりむしふ
 是ハ女のむ乃擗カウラと教階カウラの教類古集り
 葛篇よのむしふめあ文字も擗とけ
 里しまじついついふあり葛よはきり人す
 核よそみあしはさやこれ依系カウラ葛
 乃らもうあしはありんとそあよ
 ゆあそなたあうそ山乃擗カウラ名葛
 あはれもあしはあしあはれも
 又擗サ葛とそりきり
 丹波道乃大はれり乃擗サ玉葛

たえん乃ふれもあもり
 げあねうしきあうつたあ一車也縁と
 おと回書也
 又所れはしきもありか文字を略也
 たまうしきんまやこれ擗名葛
 しまじついついふありそあしき
 是ハ擗名とかまきりあねうしきありそ
 下句よさねはしきあり
 玉擗うけぬあしきあしき
 あふそもりああはれりあしき

山たりまた少人ふらん家おろし
きと終家時するはうもあ

い玉藻タマモと玉尊タマノミとさるまれば人へ又玉楓
とひふ事あり是ハ桂あり

うきよ

あひありりす共ハありもうと玉

夏ふもみしは受日ウケヒ平宿ヘイシュク

形胎ケイタイらうきよハ日本紀ニッポンキと書或ハ

誓チカエとりきり新持ニジメとらたこうきひらの

地り

古終拾遺コシュウシユイ云折書槽ウケケ古終コシュウ字氣布祿約折キフロクヤクセ
意イ今イマ云イハうきよおねとひあ也

焉ナニこち試シとやわいりりげん

得飼ウケケ飯イ而ニ陪宿ヘイシュク夏ナツふみこぬ

あきうう後ノチありんと夏ナツふみ

受日ウケヒそねうふと一ヒトハ

和云ワクニけうきひこぬとあふ家イヘあもハ新

とまひりちりふとはすうたうり

とくまらや ち一ヒトハのえん

あせいちやち海ウミはるそのつらふあり

とくもつらやうもつらひりあられ
願服カとくしたのやとハれれえひすハを
乃羽のくた子附子と云毒をわりてうり
のあき中紙をうりてうりとり附子夫
とつらあき也えひひのあきハあけり
きいり一海乃えうとそ云也

うはるなり

宇波ウハ弊ヘ音ナキものうへくけり
と紙子あけをうりひとあへん
願服カうりくた子と云入るに云羽也

うとつらハ羽乃助也入く志とハ
と入ありとそわじつ羽ありけりハ湯原王

贈オク娘メ子コ奇キ 女也 又云

得ウ羽ハ重エ無ナキにもあつおもうつらり
人乃ら紙けくひとあへん

あきハ家ヤカ柁カ贈オク娘メ子コ奇キ也也同也

うら

うらあひまかあつあつあハ
あうり井イあつあつあつあハ
願服カうり水とハあき日とつらけり

乃お月也きふあきまうつあはれき也東向
あゝあ人の正月え日そまうつまうつ一申
は僻事也努茂祐るよふう翔日よそ
まうつ紙もまうつ水とPあはれそれそ立
春子あつてく私子P事也海海院
乃お時子あまふ乃翔あはれそ今日
ふふあきと宣旨ありまれば後新翔はり
よあは

あうためみうとし河はりまう水り
じまふあち代の始あはれん

年中の事云立春日モトリリツカサ飲ス立春水ワカミツラ
居掛敷二本各一杯アサカレイノ朝餉ヲ向テ生氣ヲ
飲ス御女ヲ稱ス之ヲ若水ヲ先ト立春ニ九日ニ定ム立
春ノ井ヲ
或秘奉ニ古用物日ニ水ヲ用撰テ注シ生氣ヲ
若ハ京中ノ井ヲ祭テ立春日ニ供ス之ヲ生ラ
氣ヲ方ニ便リ古用ニ卷ニ者ノ方ヲ
典業寮進テ籠テ御テ藥ヲ井ニ并ニ封ス屠ト蘇ツ井ヲ
在ル典業寮ニ巽ニ井ニ但近代無ニ件ノ井ノ用ニ
后町キサイノニナラ

くもどり乃あや

くもどり乃あやれいあふもあむらほ
き成あひみくはくろくあまひ

願昭まくもどり乃あやとくもはくれ文乃
後也とほとほとほとほ也百解は云
有露後也いけいあハ大和物終よくもどり
乃文とやうじいせとありうくり事よ後
はきあり

かうてぬさす

むうまはあむらうき舟波はくろ

かうておれはと極めてかく

取昭まかうてぬさすとあむらくもはかうて
ありてとてありあむらおはつあ成むくお
たれはあむらうきとらひあ乃はあ成ハ志
りてとてあむらうきあねとハたきあて
何んよむらうき舟也うておはすもとて
はくもむらうきとてあむらうき
くはあむらうきありてむく也それよすくろ
たらてようむらうきいふくもあてとら
ま極らむらうきあむらうきあて

よき事いふはくひきこく也たふらうそ
も志のそもかひし事ハ白事ありは
ハか三て紙よめ事也志くあなと何や
う紙もつうたよりきこくそつり
かまうぬほよたおふこくたうす
ありむらさハ後後よあり
あみろく

みまらふはあはらうひのひか
人さくの井らうふらうふら
眼みまらうはあはらうひのひか

くはあこくふら也あふともふら
うらあ紙をふと見とあみふ事也
おふあふともふ事也
あふあふともふ事也
はらうら
い屋とら

あせれ海乃真川志ら後あり
いやとらふらう志のそん
頭眼かとらと六年のつらめるら
とらとら年れ始とやとらあり

おと云ふ也い屋と一ちやと一はんと一
乃も同調成略一は也
万葉云

年のとらふまはしつゝかへしつゝ
ひち成りあへたつゝはまあ

万葉云

毎年トシノよきつゝ物持へかゝるまは

まげん志ぬりつゝあそびもあつゝ

毎年トシノ謂イハレ之等トシノ之トシノ波ハ

おとやと一おとよも一もつゝ万葉多一

毎年とらきり

しつゝあきくたきつゝれを

お月ツキのよきつゝりきつゝあきつゝ

あきつゝれ風おきつゝあきつゝ

船フネ去イしつゝあきくたきつゝそのせと息イは

たふとよもし也イはまはあけされもあつゝ風

とらふ也いとれと同名也

つゝやすめ調也海乃たあふあつゝあつゝ

志あえつゝあき

若カ恵ク志レえつゝあきつゝあきつゝあきつゝ

船をせめて月をせめて
 船を志あえうとあれたるあけさこのふ
 との事せうとあはも国事也或はう
 少はうとあはも詞とみよ
 若忠とくうとあはも
 あはも中しうとあはも
 かりとあはも
 あはも
 万葉とあはも
 妻とあはも

えははとあはも
 知るとあはも

形胎とあはも
 古た日紀とあはも
 良玉集とあはも
 浦とあはも
 島とあはも

奥平抄云

律の圓れあふらひ何れあむらうふ
ちむしむらひ衆人あむらむ
そいふ家くわあ家あし東たはぬら
しむらひ家もふあんりつるあむら
いあむらひもあむらひあむらひあ
ふ家あむらひ

輕波のよきまれば葛^たあむらひ
かほくらふよ城のあむらひあむらひ
乞ひふ也教長つえしむらひあむらひ
あむらひあむらひあむらひあむらひ

む城のあむらひあむらひあむらひ
あむらひあむらひあむらひあむらひ
とむらひあむらひあむらひあむらひ
私えはあむらひあむらひあむらひ
あむらひあむらひあむらひあむらひ
松原あむらひあむらひあむらひ
らむらひあむらひあむらひあむらひ
あむらひあむらひあむらひあむらひ
乃きあむらひあむらひあむらひ
あむらひあむらひあむらひあむらひ

伴勢物終言しし一からうわらわらあ
 甲きりむしりふりや一またたしむし
 きのころり毎一たはむのいふりさす
 乃はころりはう人乃まあはあふひそと
 うけりりりふりふり一たれむむ
 さやうたはあはたもあふはりたれむむ
 乃ははらりやわらうりたてこむむ
 一たはたもれむむりあはあはあは
 男きうそいとふらう一たれいむむ
 あはりうあうたう人乃まあはあはあは

みそくやほとせしうはたの
 むさ一おのふさうし
 今云しうきれ乃まこむし時ハあうは抱り
 とつふあり字位の袍よむひくへうひふらう
 ありたう人のまあはやほとむりふ位の袍也
 抑伴勢物終乃書格詞おもも及ぬ事こ
 ありは古今よハおほくハは物終乃あは
 ありまハ詞もむりまた入は見格あよは
 あり詞ううう一あうれまうあ人のううあ
 乃と一たはくよたとれう人乃まあは

子つらうもさくあつん事うぬんく
 うめれたらうりらんうけらんのき
 わざらほとてふあふと死てたあん古
 今れおとん貫らんかきほうある〜未代
 よう事う〜死すたさう〜死事也
 ぶらとうき

川東ぶらうのきとあ〜さうら
 こあま〜しほもぶらうの事い
 取船ぶらうとらきとらあとうれとらき
 ぶらうきとえ取又る事也

のいぶらうの事いぶらうの事い
 らもあふらうらうの事い

是は書し紙とらきりし事い麻も町馬
 ちや〜〜〜の事いあ〜〜の事い
 乃ち〜〜〜の事い
 二首あ〜〜の事い
 ちや〜〜の事い

ちや〜〜の事い

ちや〜〜の事い

那耶去むる六坤風也

吾名抄去むる六巽風也むるハ少ク也

少ク風也

又いぬ井乃を流し何ありと云ふ

ああり少くせとれ増しに毎て一く

るくうる海らやるハ少ク位乾

何あり吹きよるおまのうるれハ

彼ともありまうる海式東國名

吾名抄去むるもの風とて中江後子あり風
ハ則是也 和云志れとて取名也以外子風
也云ふ也 日本紀云級長部部命是風
神也又云一書倭神語考子倭神冊考共
生大八洲 國就後倭神語考曰我取生
之國唯有朝音而薰海之我乃吹撥之氣
化為神号曰級長戸名也命示曰級長津
度命是風神也 經定心奇月維頓部
山乃云云志れとの風ハ吹りて
る少く月や志りてと申す也

又催字樂よあつらあひ乃風と云あり
みらのらちききふのうよよ我の何りぞ
とやまは海うしなへうらあひの風や
吾名抄去女乃すこあへらんおとよらじし
後頼朝臣

あつらあひの風海のめせやくしよ
とらあまきしぞらよたちやとらぬと

そ侍ひこ海ゆこ
うききの具津彦真弓荒木あも
たのめやきりうらわの若らん

那那云そ侍むこ海うい哉こつひこまらうも
よあり取名独みちれくのあううら海ゆこ
といふあうし然るうきよよそ侍むこ
と云取名あまや

梅ふつ巻とり

逢後の夕行鳥よあうらう
そくそくしりあけあうくもみ宛
那那云夕つ巻とりとあえらりそとせよ
あうし宛時屋鏡糸とてたほやきのせよ
せぬよ鶏よ木綿とけきそと空か開まら

甲子年也壬辰辰八東乃寧るれはかく續り
け奇ハ中綱言源昇釣臣乃道は舟ハ舟
多時ハ同院クミテ也ヨリ多時多時也
又大和相續云大和の國あり多時人乃
じとあいなむ多時多時あり多時多時
ら能く多時多時多時多時多時多時
らうらきあり多時多時多時多時多時
乃きてふき多時多時多時多時多時
ろく多時多時多時多時多時多時多時
お多乃中ふ何ふ多時多時多時多時多時

とて記てあきり女おそろくと多時多時
多時多時多時多時多時多時多時多時
いとせむ多時多時多時多時多時

たりみされ極おつ多時多時多時多時
とらうらふ多時多時多時多時多時
かへ

多時多時多時多時多時多時多時多時
極く多時多時多時多時多時多時多時
とらみ多時多時多時多時多時多時多時
たると多時多時多時多時多時多時多時

私之これよりみきれの方ハ古今才十八題
後人不知言也又言返身而大和物語也
はる見事一秋平城京^{ナラシ}あてハ龍田山を
栲律園へりうふ道されハ西の園あて夕
つきよりふまうんふたよりあり又いふ
あもは山あやとりてよまうし言お遠秋
言者抄云栲よつきよりハ鶏の名あり
あんとりふゆよとつきくらよんあひ
糸のあら也

童蒙抄云齊文乃業平りくあよつ

あつてひくしありしふんより秋栲よつき
てを返の字よとれちありしよよせて
ふあふとる

續抄云ひくハ園鶏をハ栲よとつ
と云事ハもわり教生ハ云鶏の尾乃去て
白成ゆあしとれと云物はきくはよ狐れ
とやと鶏名を栲よつきと云也
私云ハ三ヶ説みちハは言其神中境
あまにいとりよ栲よつら事ハと不知
あり就中あしを尾のあつて白り

本綿ニしてつニきニはふニはと云ニは
乃々カ葉カ積カ遠カ恨カ

とれちとり

三ノ三 鳴ニ文ニ乃ニ池ニ之ニ較ニ鳥ニ

人ニあニまニこニひニきニまニらニす

然レ服ニ云ニまニちニとニりニとニ池ニまニとニれニち

うニふニとニ云ニ也ニけニ身ニ八ニ日ニ並ニゆニみニきニのニうニせ

ゆニくニ後ニまニあニゆニ奇ニ也

鳴ニ文ニ乃ニ池ニ之ニ較ニ鳥ニ

何ニくニいニまニゆニきニにニまニまニらニすニまニも

是レ八ニ回ニ會ニ子ニれニ全ニ人ニホニ働ニ傷ニ奇ニ也ニこれニもニ同
心ニ也ニまニまニ乃ニ池ニとニうニ人ニのニ池ニとニをニかニらニりニる
万ニ葉ニ抄ニ云ニまニまニとニやニハニ有ニ者ニ也ニとニれニちニ馬ニと
ハニみニこのニまニやニ乃ニりニりニ進ニまニゆニまニあニ然ニうニれニんニや
うニせニ給ニまニれニいニまニまニやニのニ池ニまニとニれニた
まニらニりニまニあニ也ニはニまニまニこニれニちニとニりニハ
うニれニとニりニとニもニあニ然ニハニあニすニまニらニし
日本ニ紀ニよニハニかニもニまニらニたニ海ニくニ池ニまニとニれ
まニらニりニまニあニとニいニ人ニ家
私ニ云ニみニやニうニせニ給ニてニまニまニとニれニんニまニみ

てふ事らんらりなりとらりあを成地よ
そを成ちかえられたらんやうらんまも
るハ新入あししてふくせよあし
吾者抄云

そを成ちりはそあめだをさふ
いそくもめ成たりいらん
是はういあしとあしとあしとあしと
とを成ちりてあしとあしとあしとあしと
成れハ別とらり
私云池よりとを成ちりあはうい

う成ちりてあしとあしとあしとあしと
云くいう成ちりてあしとあしとあしとあしと
てふむとあしとあしとあしとあしと
むとあしとあしとあしとあしとあしと
を成ちりてあしとあしとあしとあしと

今れいその御が事よつそああれととあ
成ちりてあしとあしとあしとあしと
と帝皇は羽翼とPは清たをけ也
成ちりてあしとあしとあしとあしと
ちりてあしとあしとあしとあしと

く銭ハそ人ふあぬあつて一百万貫はあハ
水考るれんやうそ池あつてなれちうふゆ
ふふれちちりとい申也
侍神抄よこあは鳥をとらあつ也
或抄よあはぬを成ねひきりてなれて
依とちあり

或いふんちりとり人よふいぬふふふ
或いもね成きりてなれちうふゆを成とちり
私言みまふはねまりて著あてふふ
くふ又著あつてなれんよふいぬふふふ

屋ハあつて

是費乃あつて戸成あけをたて

くちりね成たれつていふ

那服云やうあつてい様の事あてつちり
く戸あつてあつてい海きの戸成のとね
乃戸あつていふふ
いまおかせり

我とふいふあつてをたてあつて

くふあつていふあつていふ

那服云いまおかせりといふあつてい

りいふれとありふみさる事あり
 乃田よありとありありありあり
 とうき八百今後人不知事也又古今よ
 わりあり推負親とあり合志事也
 山田りありの傾カリホ廬よとありあり
イナアホセトリ
 稿負鳥れありありありあり
 けりハ菅家万葉集よも事ありあり
 ハ波ありあり
 和語抄云山田よとありありありあり
 ありあり也

和語抄云いまた海をりいありあり也
 吾名抄云いれおがせありとありあり人
 ありありありありありありありあり
 人ありありありありありありありあり
 とありありありありありありありあり
 ありありありありありありありあり
 事ありありありありありありありあり
 人を恋ちありありありありありあり
 けりありありありありありありありあり
 ありありありありありありありあり

鳥をあれい今始てゆへあるよれとど
くさき事よもあつた

興義抄云古奇いあつてあり或
ハ姓の田よも連りむ鳥也或ハ秋よりそ
くはういあり後子奇いよ

いふまきそいあつた鳥の鳴き声よ
くたつくとありひまはうり

又あふ事紙をいぬもあつたは
てあつたといふ人もあつた事草
和名魚名莞ふといふ鳥よといふうり乃

くろくろ実名うらちとあつた
事もい

又傾り和名よいあつたといふ鳥
あつたといふ日本和記云さつと
うりといきり又別よ縮負をとい
よくうみつあつたといふ書て万
とびき又いふといふ鳥とみま
傾あつたといふやいあつたとい
うたつたといふ傾りといふ事
らん事と今世い定う

私考日本紀云一書曰陪神先唱曰表哉
善抄男時以陰神先言故為不祥更
復及巡則陽神唱曰表哉善抄女遂將
合更而不意多術河有鶺鴒花來搖其
首尾二神見而學之即以交遊
因紀云河之鶺鴒神祝詞云
或祝詞云云云云又祝詞云云云
あ氏祝詞云云云云
案之云云云云云云云云云云
二首八古今あ事哉云云云云

此之祝之上順和名序之云或舉類聚因史
万葉集二代式本取用之假字水歟有華
唐之名山鳥省稻負之号也草之中女
郎花浦苔之屬於朝奈未是也又私云
日本琴万葉集俗用倭琴二字云万葉集
云海人あ万葉集曰愛子鳥云云云
万葉集之稻負鳥云云云云
約云女郎花和号云如倍之
今云此物名并字引万葉之中一稻負鳥
入菅家万葉集云云云云云云

海へくしは霞子鳥も傳つ出り万葉集是レ何カを
吳名とと尋ひ事や入れ作るくしまおゆせ
鳥とえ船來て船に秋田子鳴鳥あつたらゆゆが
たれた乃たらぬ

あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ
あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ
あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ
あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ

あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ
あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ
あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ
あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ

はらととあつたらゆあつたらゆゆ
あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ

あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ
あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ

あはかすゆゆ

あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ
あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ
あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ
あはかすゆゆあつたらゆゆあつたらゆゆ

川へ舟をさし

えんりえんり

けされたる舟つたあまよれあま
うつりやーぬる霧の花ひり

眼眩をえんりすりと八催るふれ
乃奇の心也

あつちうきんやさきんちちやまき
えんりー乃ちうえんのをさちち

きんちちや
ふっ心葉云

コウきぬいせんはまあはたかまの
舟へ格きーいせんのされぬ

えんりえんりさちちうつりす
よみ格う也或古柳云い花水う
人よひちり催るふ万葉集お乃
あつちりさちちや又萩あそひ
万葉云

つあしよありん人のりあは

きぬふひりうんすれ^捧舞

あつすきのすれ^捧心あ

ねしぬきりうりふろひの考本あり
緋紙抄云らばの花成りて衣成る也
奥美抄云百葉戸くらばの花ハ入録本
有款

今葉子稱大款^ト足款古板^ト花^{ヒラキ}葉^ナとよ
むはば蘇歎^ハ捺字^ヲ用^フ之^ル蘇字^ハ小款歎^ト
但^シ万葉^トハ皆^ハ捺字^ヲ用^フ之^ル

和之戸のありぬきりし本蘇とく古板
花あり蘇ありとありたことと記と云れ
この本ハ本ハありりやま^リり^トとれと

いありえよし^ク事^ハ依^テ頼^ル氣^ハ云^フ
と^ハ心^ハぬ^キた^ハ何^レぬ^レれ^トよ

是^ハ時^ハあ^リぬ^キた^ハ何^レぬ^レれ^トよ
是^ハ時^ハあ^リぬ^キた^ハ何^レぬ^レれ^トよ

いらともなるれいぬ^キ祿^也と^ハす^ルは
と^ハ記^スて^ハ衣^ハし^テ也^ト他^ハ取^ルよ^ハその^レと^ハ記^スる
と^ハ依^テ惠^ルキ^ハん^トぬ^キ事^也

何^レ考^ルれ^ル緋^紙抄^ハと^ハの^レと^ハ捺^字り^て
と^ハれ^ハ衣^ハり^りと^ハす^ルは

ちよこれ衣うしろにびよ白しろいせしよ

鳩乃襟糸あきたるひよ

むくうしろに白襟糸しろのひよ

衣うしろ不ふせせひひのひよ

今いまよりねと襟字ね然しかるる皆みな衣うしろの

ととありいいい借かるる糸いと又また此こゝにに糸いとのひよ秘ひ説せ

ありいまいのひよ秘ひ説せのひよとといいふふとといいふふ

冬ふゆのひよ花はなとといいふふとといいふふとといいふふ

小こははききてて借かるる糸いと又また此こゝにに糸いとのひよ

とといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

花はなのひよ風かぜ俗よああんんににいいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

とと秘ひ説せとといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

本ほんのひよとといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

未

ははららええのひよとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

如法祝ハ何も志しうよふあてて平来よ
めけ云独

うほくく 百舟

あそこ花ざりちてうりく
みまく乃ちた者よもあはれも
昭昭云うほくくといほくくとい云詞独
うそやほめしとあてうあつ世情とら
あそあはれしとあてうあつ世情とら
ほくくといほくくといほくくといほくく
つこといほくくたふと云也何とうとたと

い 何巻也

考古方目就云何者これきあくうみ乃
あまきれいあくうりりすくめいりてあ
ん成そそく成りりあよ神風あつ
りふまれのあは

ちりああ神れしうりよああうま
かろん成りりあくうりりあ
あくほろのえいすれあまきつれまあま
あとりあ神よあはれいあまらう
くうみよ神のら成りりあああうち

とらけおとつ神のれんありたり
 け神よそんえありひくし〜
 ぬふとくふ神とむかえんり
 福やう〜あ〜む

うれりれ福やう〜こすけけあれ
 志いりしきしほられしきまわ
 取胎云福やう〜こすきハ取の者あや戸
 人あましと根とあふまみだつたれハ根
 やう〜あふこすけとよあふあう〜海
 さいひうふとまきハ根あふ〜う〜ひて

うりよとれむ
 ころあふまわ

ふ〜いん人あ〜あ〜
 とあ〜れ〜い〜れ〜
 頑胎云とれむは〜あ〜事ふもあ〜ぬ
 事也年始ふもとれむつま〜い〜
 さい〜い〜ふ〜あ〜れ〜人〜
 さい〜り〜あ〜あ〜りの人〜
 き〜て〜も〜ら〜い〜む〜人〜

毛詩よ嘯云人道言我願言則嘯

キモリキ イフナシ フキケシ テハナヒル

四分律云時世尊^{サハシヤ}呪^シ諸比丘^{シヤ}咒願言長壽^ト
時有居士^ニ呪^ル及^テ礼^ス拜^ス比丘佛^ヲ令^テ比丘^ニ咒願言^ニ
長壽^ト

今案今俗正月元日若^シ早^ク且^ニ呪^ハ即^チ稱^ス白^ク平^ニ
秋^ノ百^ノ歲^ノ急^ク如^シ律^ノ令^ト是^レ緣^ト也^ト何^レ只^シ在^ル元^日
哉^ヤ尋^フ常^ニ禱^ス之^ト又^ニ百^ノ業^ト云

うちあきれたるれをうひはる^{ツルキ}
みよそふいりうあひく^ト一^ト也

けあ^ニあふん^トとく^トあれ^ハひ^トとみ^トう^リ

あきれたるれをひも^トあ^リう^リ人^ヤ
あ^リう^リとありふ^レと^ハ

これともな也

奥^ノ抄^ニ云^フう^リ人^ノは^ハう^リあ^リう^リと^ハせん
事^ト也^ト或^レ物^ト云^フ人^ノ事^ト然^ルあ^リひ^トと^ハあ^リ
ゆ^ハあ^リれ^ハあ^リま^シう^リあ^リす^トと^ハあ^リ
う^リと^ハあ^リ

う^リと^ハあ^リゆ^ハあ^リれ^ハあ^リま^シう^リと^ハあ^リ
あ^リう^リ人^ノ神^トや^ハあ^リの^トあ^リこ

あ^リあ^リひ^トと^ハあ^リの^トあ^リう^リと^ハあ^リ

神女乃わすらりてまひくと聲ヤ豊ツヤたま
移ヒははえくまの成いすはすはうまひと
て何のすあそひよはるは是也

葉りりりみ

うらたぬ葉りり神のまうらなを
あうそうわらうたらるははな
那昭まらり神と六樹神也うら河乃
木成まらり神也はく葉成まらり神と云
あり然成つる各葉成まらり神と云
るありあうら葉りり神よいのりん

うらたぬ葉りりやのあはと

基イ依判ニまらりりみはうらかへてれま
りり神よはあはははたまらり三ミ總ツ柏カシの
とらうふらうらみしてはと事ありて
りりり

私シ去キい事れ澄ふりれうらたぬとひま
かりたるとはゆりはとらはまらり
或とあうらうら葉也はうららりあて
いりたるとはうらたるとらわさハ祿
然シ化カ木成はうらんとまらうらうら通

愚^{クニカラ}あつめて不精^ニ三總^{ツナ}拍^{カレ}歎^ニ

言者抄之業りりれ神といふ乃^ハ蘇^ハ成^ハす
は非乃あふたといひるあり

屋^ハやまて

屋^ハやまて山^ハ野^ハもあつてん

目^ハれより中^ハふすといふといひぬとい

願^ハ昭^ハ云^ハ屋^ハやまてといふもつていふ

願^ハ也^ハやと云^ハ約^ハといふ倍^ハもいふといふ

伊^ハきよいといふといふといふといふ

よふといふといふといふといふといふ

袖中^ハ五^ハ五

いふといふといふといふといふ

事^ハよは七日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日

事^ハよは七日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日

事^ハよは七日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日

事^ハよは七日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日

事^ハよは七日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日

事^ハよは七日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日

事^ハよは七日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日

事^ハよは七日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日

事^ハよは七日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日^ハ十^ハ日

Handwritten text in a rectangular box on the right page, likely a signature or seal.

平抄申書者府御本傳地筆
合書字之以此卷為五冊十七卷極
彌源為仲十八卷予十九卷卷古回
右兵部督 蓋有 亦筆也

天正廿二年正月日 黃門都護島言繼

右此袖中板者古來和款
之之奧秘而容易不流布
于世向之幸也雖然年久
罹蝨魚之患已欲泯滅故
壽于梓傳後世者也

慶安四曆初秋
三條通菱屋町
林甚右衛門板

